

Domnung Pii SCHEC

ドムヌン ピー シェック SCHEC

～ シェックからの便り～

第5号(2005年12月号)

NPO法人カンボジアの健康及び
教育と地域を支援する会(SCHEC)

〒160-0004 東京都新宿区四谷
4 3 29 伸治ビル4階
Tel・Fax 03-5368-6387

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~SCHEC/>

こんにちは、NPO法人SCHECでは毎年11月と3月にカンボジアへ赴き、歯科医による歯科診療種や、井戸の設置状況の視察、小学校の建設事業の確認などを行っています。今回は2005年11月の活動についてご報告いたします。事務局

今日から始まる夢への一歩！

～ブローン・サンキム小学校・杉戸中央ロータリークラブ校舎～

2005年11月26日、四輪駆動車5台に分乗して、シェムリアップの市街から東に約70kmのブローン・サンキム小学校・杉戸中央ロータリークラブ校舎に向いました。舗装された国道を左に折れると、月面と見紛うほどの大きな穴ぼこのいっぱいあいた、赤土の道路となりました。頭を車の天井に何度もぶつけながら、国会議員のナムさんが、わざわざこの車をご手配して下さった意味と四輪駆動車の性能はこういう道でこそ発揮されるのだという事を痛感しました。

学校に到着すると、既に生徒たちが、門のところから整列して私たちを迎えてくれました。



【これから生徒達の学び舎となる校舎】

開校式では仏教国らしく僧侶による読経、生徒のアップサダンスもありました。来賓のお話では、「この村のように遠隔地域では、教育施設の不足と、6歳児の急増という現状がある。」ということでした。

この学校の建設資金は、埼玉県のカンボジア中央ロータリークラブからのご寄附によるものです。今回は、伊藤会長をはじめ、3名のロータリアンのご参加を賜りました。また、教師が使う定規などの備品や、生徒への鉛筆やノートも併せて寄附戴きました。

校名の「サンキム」はカンボジア語で「希望」という意味です。この校舎で生徒達が未来への夢と希望を持って学んでくれることを祈っています。



【日の丸とカンボジア国旗を振って迎えてくれました】

生徒達の喜びの声

写真左より、ボンダブンちゃん、ロングソパーちゃん、ユプレちゃん、ソコンちゃん、ソツィムちゃん、ジフンちゃん。「新しい校舎ができてとっても嬉しいです。」と話してくれました。みんな14歳ですが、学年は5年生です(カンボジアでは、経済的な理由で、すべての子供が6歳で入学できるとは限りません。)。カメラを向けるとちょっと緊張してしまうのが初々しくかわいらしいです。



次回の学校建設事業

来年3月に7校目の 小学校校舎を寄贈予定

来年3月の小学校建設予定地は、チクレン郡、ブンロークロム地区ポーク村のブンポー小学校です。現在、全校生徒420名で、2部制。来年の9月の新学期には120名の入学が見込まれており、卒業生との差し引き80名の生徒が増える予定です。ポルポト支配の終わった直後、79年に建てられた3教室の校舎と82年に建てられた2教室の校舎がありますが、いずれも木造で老朽化が激しく、79年築のものは1教室が完全に破壊状態、残

カンボジアの未来へ

杉戸中央ロータリークラブ
会長 伊藤典男

ホテルから車で約2時間、半分以上は悪路を、まるで大波に揺られる小船のように進み、小学校に到着しました。現地では村民約600名と生徒約250名が我々一行を迎えてくれました。校舎に続く沿道では、生徒達が日の丸とカンボジア国旗を振ってくれています。

式典は、テープカットから始まりました。まずお坊さんがハサミを入れ、次に私、ナム国会議員、そして同行の方々が続きました。式典終了後、学校建設の貢献により、私は代表として「国家再建勲章」をもらいました。この勲章の意味を私は帰りの空港での待遇で知る事となります。

式典の後、各教室で生徒達に文房具等の贈り物を手渡しました。カンボジアは日本と比較にならない程貧しい国ですが、贈り物を手取る、好奇心一杯の生徒達の目は、私が日本で見る小学生のそれと変わらず、それ以上の輝きがあったかもしれません。この小学校から、カンボジアを救うような人物が育ってくれることを祈ります。

私たちの活動は学校を建設するだけでよいのか、考えさせられました。ここに優秀な生徒が育っても、大学はるか高校進学さえ地理的・金銭的に無理でしょう。また、学校のトイレは、とてもトイレとはいえない状態でした。今



【お行儀良く文房具を受取る生徒達】

った2教室も壁がなく、天井も一部をヤシの葉で葺いて、しのいでいる状態です。強風の日は休校せざるを得ないそうです。この場所に、できれば6教室の校舎を建設したいと思います。

井戸掘り報告

今回もご寄付戴いた76本の井戸により、シェムリアップ州アンコールトム郡・バンテアイスレイ郡の7ヶ村の268世帯、約1400人がきれいな水を使えるようになりました。



また、多くの方から、お手元で不要になった文房具などをお送り戴きました。ありがとうございました。文房具は、お気持ちと一緒に、農村の子供たちに直接手渡してきました。子供たちは「オークン(ありがとう)」と手を合わせながら受け取ってくれました。

今回の視察に参加して下さった、大学生の小野田朋恵さんより感想を寄せて戴きました。

「ボランティアは同情するものではないといわれています。私は正直に申しますと、カンボジアという貧しい国に行くにあたって、同情せずにボランティアができるか不安でした。ところが、井戸視察で農村の人々と出会ったとき、まったくの取り越し苦労だったことに気づきました。彼らは確かに豊かではありませんが、家族そろって幸せに暮らしているように私には見えました。特に子供たちは純粋で、逆に、ああ私が幸せをもらっているなあと感じました。



現地で寄附した井戸や学校を見て、この国の発展の一場面に参加できたことを光栄に思いました。いつか外国に頼らず自力で素晴らしい国になることを願っています。」

風光る ~ ~ ~

『杉並区立松ノ木中学校』

松ノ木中学校では、昨年・今年と生徒会が中心となって SCHEC が行っているカンボジアでの歯科診療に使うタオルや歯ブラシを集める活動をしています。夏休みに家族で旅行したときなどに宿泊施設で出される「タオルセット」を使わないで家に持ち帰ったものや、新品でも家庭で不要なものなどを、生徒会の役員が夏休み後に校門で集めて SCHEC に寄附してくれています。

SCHEC 歯科事業

タン先生歯科研修を支援

SCHEC の歯科診療活動を現地シェムリアップで支援して下さる歯科医師のタン先生と奥様が歯科研修を目的に10月14日来日され、11月13日まで1ヶ月横浜で過ごされました。タン先生は以前より日本での歯科研修を希望されていましたが、今回、河野理事長の尽力により鶴見大学歯学部附属病院での研修実現に至りました。研修中はおもに同病院のインプラント科に在籍され、インプラント埋入の手術見学からその後の入れ歯やかぶせ物の作り方はもちろん、日本における一般的な歯科治療(虫歯や歯周病の治療)についても広く研修されました。カンボジアでは一日の平均患者数は4~5人とのごことで、患者さんの多さにたいへん驚かれたそうです。

日々の研修の後は同病院の寺田医師、邑田医師の案内で、カレーや焼き鳥を食べたり、浅草探索、皇居の見



【鶴見大付属病院でのタン先生(右)】

学をしたり、日本の文化にも広く触られました。焼き鳥やてんぷらなどはカンボジアにもよく似たお料理があるそうで、意外な類似点がありました。

「日本に来て、治療の水準も街の発展もカンボジアとあまりにも違うことが多く大変驚きました。ぜひまた日本で勉強したいと思います。また、カンボジア歯科医初の訪日研修の実現にご尽力頂いた皆様方にたいへん感謝しています。」とのこと。

SCHEC サポーター



井戸掘りの世話人 オム・サリムさん

SCHEC の井戸掘り事業を支えてくれる一人。まだ、正確な地図が整備されてない現地において、井戸の視察ができるのは、オムさんの案内あつてのこと。2000年からこの仕事に就いているそうです。事務局は残念ながらカンボジア語ができないので、直接コミュニケーションは取れないのですが、顔を覚えてくれていて、目が合うとにっこりしてくれます。「カンボジア人の為に井戸を作ることは、楽しいことです。みんなが喜んでくれて大変嬉しいです。」とコメントしてくれました。

SCHEC 理事 おん ほんほん 恩 凡香さん

SCHEC の現地活動を全て手配してくださっているのが、理事の一人でもある、恩凡香さんです。カンボジア内戦時代に、日本に難民としてこられた経歴をお持ちです。今年5月に独立され、ご自身の旅行社「カンボジア旅社」を設立されました。個人旅行のお手配もされていますので、機会のある方はぜひお問い合わせを。



「カンボジア旅社」E-mail : camtabisha-pnh@everyday.com.kh

洗口液『薬用リステリン』 1000本を配布

ファイザー株式会社様よりご寄贈戴いた洗口液『薬用リステリン』をブローン・サンキム小学校杉戸中央ロータリークラブ校舎の全児童に配りました。

SCHEC 歯科診療活動に毎回ご参加下さっている歯科医の志賀有里子さんより開校式にて学校側に贈呈され、タン歯科医から児童に使用法を説明して戴きました。その後、今回の視察参加者全員から、児童一人一人に手渡されました。

2005年11月参加者の皆さん
今回は10名の初参加者を迎え、総勢17名の視察団でした。オークン!



事務局便り

今回も無事に支援活動を行うことができました。皆様のご支援に感謝申し上げます。農村で「チュムリアップ・スオ(こんにちは)」など片言のカンボジア語で挨拶しますと、何故か現地の方は大笑い。それでもちょっとは心が通じたかなと思うと嬉しいものです。☺